

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

1. 学校概要

学校名 新居浜市立北中学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒792-0024
愛媛県新居浜市宮西町5番81号

E-mail niinj-ad@esnet.ed.jp

Website http://niihama-kita-j.esnet.ed.jp/

児童生徒数 男子 132 名 女子 113 名 合計 245 名
 児童・生徒の年齢 12 歳～ 15 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか (福祉)

3. 活動内容

1 テーマ（主題）

『ふるさと学習』 ～地域を知り、地域に学び、地域に発信する～

2 主な活動内容について

（ねらい）

自分たちを取り巻く自然環境や地域のあゆみと、その中に生きる人々とのかかわりについて、探求的な学習を通して地域について知る。その活動を通して、地域の課題を見つけ、解決方法を探り、よりよい社会をつくり、地域に生きる生徒を育成する。

（活動の実際）

① 歴史・文化学習

【目的】

- ・ 調べたこと、分かったことをもとにして、新居浜市や地域の歴史を伝える。
- ・ 新居浜市や住友の歴史を知ることを通して、郷土のことを考える力を身に付ける。
- ・ 学習して学んだことを生活にどう生かしていくか、この地域をどう発展させていくかを考え、行動化する。

【内容】

第一学年では、ふるさと学習で行う別子銅山登山とを関連付け、別子銅山に関する歴史学習や別子銅山記念館の訪問などを行った。南高のユネスコ部の協力を得て、別子から見る新居浜の姿をイメージすることができた。また、遠足にあわせて地域散策を行い、校区内の歴史ある建物などを見学し、地域のよさを再認識した。第二学年では、郷土料理について詳しく調べ、新居浜の特産物である白いもを使った料理を開発した。第三学年では、別子銅山の発展に尽力した「広瀬宰平」「伊庭貞剛」「鷺尾勘解治」の功績を調べたり、山根グラウンドや昭和通りの歴史を振り返ったりすることで、新居浜がどのように発展していったのかをまとめ、全校発表を行った。



② 防災教育

【目的】

- ・ 新居浜市や地域の一員として、自然災害に備えた安全な町づくりに関わろうとする態度を身に付ける。
- ・ 学んだ知識をもとに、自分たちができる防災対策を考え、地域に発信する。

【内容】

第一学年では、過去の震災について映像資料を使って学習し、教訓となることながらを整理した。第二学年では、消防団員の方の協力を得て、実際の救護方法等を実習した。第三学年では、避難所運営について考えさせたり、非常時に使用する簡易トイレなどをつくったりして、防災に対する意識を高め、全校発表につなげた。



③ 福祉教育

【目的】

- ・ 地域の高齢者やそれを支える人々や機関とかかわることにより、現代社会における福祉の現状と課題に気付く。
- ・ 地域だけでなく地球全体を考え、地球で生きる人々が安心して生活するために、自分たちに何ができるかを考え、発信する。

【内容】

第一学年では、社会福祉協議会（ふれあいプラザ）での館内見学や車いすなどを使った体験学習を行った。第二学年では、社会福祉協議会の協力を得て独居高齢者宅の訪問を行い、プレゼントを渡すなど、高齢者の方と触れ合った。第三学年では、ウエス回収や幼稚園訪問などの活動を通して、福祉に対する意識を高め、全校発表を行った。



④ 人権教育

【目的】

- ・ 様々な人権問題を知り、かけがえのない存在としての自己理解と自他の生命を尊重する。
- ・ 人権問題解決に主体的に取り組み、自己の生き方を見直す。

【内容】

ハンセン病元患者と人権についての講演会を全校で聴き、講演を受けて、各学年で人権獲得の歴史や就職差別についての学習を進めた。第二学年では、市役所人権擁護課を訪問し、市民の人権に対する意識調査の結果や、身元調査お断り運動のステッカーについて学んだ。第三学年では、特別支援学校川西分校との交流を深めることで、相手の気持ちを考えて行動することの大切さを学んだ。



3 成果と課題

本校の『ふるさと学習』は、一年生で全ての講座を一通り学習し、二年生で講座別に分かれて本格的に学習を深める。そして、三年生では、全校や地域への発信を行う。この学習の形が定着してきており、生徒にとって一貫性のある学習となっている。また、三年生の全校発表を受けて、下級生が今後の見通しを立てることができ、全校が「地域」

を軸にしてつながることができる。学習の過程で、公民館や福祉施設、校区の方々などの協力のありがたさを感じた。この地域のつながりを継続させ、更に発展させていく取組が必要である。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

■ 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）

時間外活動の時間を使用

ユネスコクラブの活動として実施

その他（）